



発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田 高森町公民館
発行人
大 洞 利 雄
☎35-8211
印刷所
龍共印刷株式会社



青空に映える地主桜 (瑠璃寺)

桜を愛で、 抹茶に親しむ会

4月3日、「下市田学校応援隊」主催によるお茶会が、下市田学校前庭で催されました。

下市田学校のエドヒガンは、町内でも最初に開花して春の訪れを知らせてくれます。満開の桜の下でいただくお抹茶は、「下市田区第一茶道クラブ」と「一期



レポート

私は4月から地元に戻ってきて、社会人として働きます。研修も終わり、社会人の大変さと、学生の時とは全くちがう生活習慣でと

ても大変です。しかし、私が今したいことは「地元のために働き、地元の人を元気にすること」なので、そのために、早く仕事に慣れたいです。そのために今は、先輩方や同期の人たちにわからないことは聞いて、一つ一つ仕事を覚えることなので、はやく地元貢献できるような社会人になりたいです。

中平 岬(山吹)

今年度の公民館事業

【教養部】

文化祭での展示発表とステージ発表の運営、手作り体験教室を開催します。また、成人式の運営を行います。

◆公民館文化祭

11月19日～20日

◆成人式

1月3日



文化祭 展示(昨年の様子)



文化祭 ステージ(昨年の様子)

【視聴覚部】

昨年度から新体制でスタートしています。高森町の歴史を、映像で残すことを目的とし活動していきま

【体育部】

公民館スポーツ大会を開催します。スローピッチソフトボールとワンバウンドふらばく大会を開催します。冬にはペタンク大会を開催します。大勢の地域の方と、大いに盛り上がりましょう！また、町民運動会のあり方について検討します。

◆スローピッチソフトボール&ワンバウンドふらばく大会
7月3日

◆ペタンク大会
2月5日

【その他】

公民館では、随時学習会を企画し、実施しています。「こんなことを学んでみたい！」など、ご意見がありましたらぜひお寄せください。

の会」の皆さんが点ててくれました。春の心地よい風に当たりながら、和菓子とともに抹茶を味わう、ゆったりとした時間が流れていました。開始を待ちかねるよう到大勢の皆さんが次々に訪れ、お茶を点てる方が忙しいほどでした。

懐かしい校舎の中では飯田市出身のイラストレーター北原志乃さんの作品展も同時開催されていました。

「下市田学校応援隊」は7年前に有志が集まって結成され、寄席や陶芸教室など様々な企画を行ってきました。

校舎2階の教室を使って喫茶店も設けられ、コーヒーを飲みながら心ゆくまでお話しされている皆さんの姿がありました。「応援

隊」代表の吉田さんは、「今後地元元気の皆さんが気楽に集える



桜を愛で抹茶を楽しむ会

場所として有効活用していきたい」とお話しされました。

7月23日

格差」が大きな問題である。貧困のため将来の夢を描けず、希望を持っていない子どもが大勢いる▼ノーベル平和賞を受賞したバキスタンのマララさんは、紛争や貧困に苦しむ世界の子どもが等しく教育を受けられるよう演説をした。「一人の子ども、一人の教師、1本のペン、そして1冊の本が世界を変えられる」と▼県や市

による「無料塾」や「返済免除の奨学金制度」などの取組みはあるが、国の政策として防衛より教育を優先し、希望と活力のある社会にしてほしい。教育はかけがえのない未来への投資だから。

三面鏡

満開の日本一の学校桜を迎えられて、元気な新1年生が入学した。いっぱい友だちをつくって、たくさん勉強しようという希望

に胸が膨らんでいるだろう▼前回のNHKの朝の連続テレビ小説「あさが来た」の主人公岡田清子さん。江戸・明治・大正の時代に実業家でありまた教育者であつた。幼少から「なんで？なんで？」と旺盛に知的好奇心があり、食欲に学び続けた彼女は「学ぶ」ことの大切さを説いていた▼岡田さんの教え子である「赤毛のアン」の翻訳者、村岡花子さんは給費奨学生。貧しくとも志を貫いて自分の夢を叶えた。そして、貧しい子どもでも夢を諦めず、全ての子どもに将来の可能性が開けるよう尽力した▼しかし、戦後の繁栄は過去に押しやられ、今や「子どもの貧困」「教育

説 論

近年、詐欺横領・収賄・偽装問題・幼児虐待等々、法令違反やそれに近い不祥事が日々報道されている。これらは全てコンプライアンス意識の欠如が原因であると考

コンプライアンスを考える

「コンプライアンスとは一体何か？」を自治会も考える時が来ているのである。

注目すべきものに「個人情報漏えい問題」もある。

コンプライアンスを直訳すると「法令順守」となるが、その範囲は近年では極めて広い。単に法や条例を守るだけでなく、その背景にある法への精神や、社会良識と

役場への住宅新築申請書類等に預金通帳の写しを求めるとは、不適切である。まさに、不要な個人情報の取得であり、改善を要す。

高年齢化の進行している高底して取り組んでいる高森町であれば、全国に誇れるはずである。

コンプライアンスの観点から高森町を考えてみる。

必要である。町民の指導的役割を受け持つ町会議員・役場職員・農協職員等から始め、町民全体に浸透させていくことが望ましい。

特産物や名勝地でなくても「コンプライアンスに徹底して取り組んでいる高森町」であれば、全国に誇れるはずである。

町内春祭り

七年に一度の勇姿 萩山神社御柱祭 下市田



木遣り唄に願いを込めて

で出発した2本の柱は、壱之柱は南大島川への瀬落とし式之柱は1区会館手前での木落としを最大の見せ場としながら、大勢の氏子によつて萩山神社へと曳かれていきました。

消防団の鳴らすラッパや子どもや女性も加わった木遣りとかけ声を受けて、挺子方は10メートルの松の太木を鮮やかに操り、狭い路地を直角に曲がる「大曲り」の技は見事でした。

3月27日に萩山神社御柱祭が盛大に執り行われました。申・寅年の7年ごとに催され、壱之柱は巡礼沢から、式之柱は大丸山から出しました。木遣りの合図

壱之柱を曳く南コースは4区・5区・3区の会所式之柱を曳く北コースは1区・出砂原・2区の会所で休憩を取り、各地区の皆さんによる祝い酒や豚汁などが振る舞われました。無事境内に柱を建て終えた後、女性と子どもたちによる木遣りの披露がありました。

区民総出で祈念する 吉田神社春祭祈念祭

吉田

吉田神社の春祭り「春祭祈念祭」が3月26・27日、多くの人出を得て、にぎやかに開催されました。この春祭りは、地域の安全、氏子の無病息災、五穀豊穰などを願い、吉田伝統芸能保存会の囃子部、獅子部、雅楽部をはじめ、区三役、氏子総代、宮司、保育園、小学校PTA、育成会、公民館、高寿会、交通指導員、交通安全協会などで作る実行委員会と、多くの区民の協力により開催されました。

27日は午後1時から本祭が行われ、1時30分頃から浦安の舞を奉納。獅子舞は、午後1時に郷倉（吉田保育園）を出発し、午後2時過ぎに稚児行列やお囃子と共



勇壮に舞う獅子と天狗

に境内に到着。子供獅子と子供獅子笛奉納の後、獅子舞がはじまり、午後3時20分頃天狗が登場しました。吉田神社の創建は、戦国時代前期かそれ以前とされ、奉納される獅子舞の起こりは、元文5（1740）年

「紅華」の皆さんによる祝いの太鼓、6人の巫女が舞う「浦安の舞」が奉納されました。最後に祝いのもち投げが行われました。多くの人の力を結集して曳く祭りへの熱い思いが、歴史と文化を継承していくのだろうと思います。

地元が誇る民俗芸能 泰山神社春の祭典

山吹

3月26、27日に山吹の泰山神社で春祭りが開催されました。

春祭りは4地区が回り当番で行い、今年は下平地区が担当でした。

2日間とも天気に恵まれ、26日は夜祭り、27日は昼から狐踊り、おかめ踊り、花踊りが奉納されました。

龍に見守られ続け… 龍神の舞

竜口

4月3日を本祭として、山吹竜口地区では春の例祭りが、厳肅の中にも盛大に行われた。地区の中には、竜

口と原城に二つの神社があり、春秋二回の例祭が行われている。

昭和63年に発足した竜口龍神の舞保存会により、今日まで脈々と受け継がれてきた地域伝統芸能のひとつである。地区の老若男女が参加できるものにしたという思いにより、親子龍を中

伝統のある春祭りが、これからの世代に受け継がれていく欲しいと思います。



かわいい女の子の花踊り

桜とともに笑顔が満開 子安神社春祭り

駒場

駒場地区春祭りが4月2・3日、盛大に開催された。ひととき色の濃い、子安神社前の桜は満開。

本祭りは式典から始まり、園児・小学生・中学生による子供神輿が、会場付近を元気いっぱい練り歩いた。次

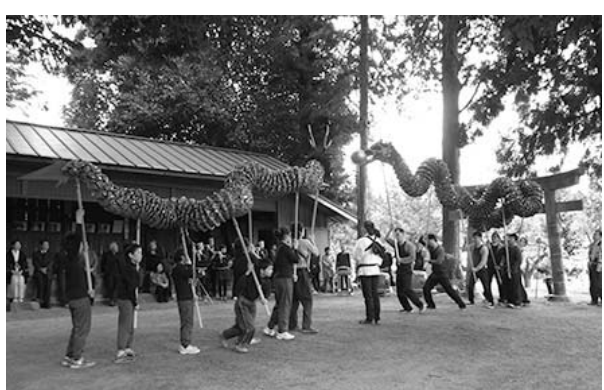
いで何度も練習を重ねてきた獅子舞は、会場広場での発表から道路を横切り神社の坂を上り、桜の木の下で力いっぱい見事な舞を奉納した。この獅子は、近隣町村の幾つかの神社の源流になつていくとのこと、地

区外の方々も写真撮影に見えていた。続いて餅投げ、子安太鼓と進んだ。この太鼓は12年前、宝くじの助成金を元手に購入し、県や地区の助成を受けながら一層充実させてきた。現在は若い女性の方々、園児・小学生・中学生、それぞれ10余名が毎週金曜日の夜に練習を重ね、ほたる祭り、丸ごと収穫祭等様々な場で発表し、今回も見事なパチさばぎで2曲を披露した。



見事なパチさばぎの子安太鼓

心に、地区住民の子どもから大人までが各踊りや舞を担当し、演舞の一連が構成されている。龍は空想の動物であるが、雲と雨を操り、五穀豊穣をもたらす、災害や災難を退けるおめでたい印であり、平和と発展を象徴する縁起の良いものであると言われている。



親子龍

天竜川の水の勢いにより、昔は堤防が切れることが多々あった地域。復興工事の中で犠牲となった男（父）と、残された母子。村の人達は「ゆい」をして母子二人を助けたという。ある年の堤防切れ間際にこの親子が龍となり村をう。

ご夫妻による「笑って覚えろ安全講習」で、詐欺の被害への注意等大変楽しく分かり易く教えて頂き好評だった。最後は和気あいあいとした祝宴が行われ、来年も元気で会えるよう万歳で締めくくられた。

親から子へ継承され続け 白髭神社春の大祭

上平



獅子とおかめの共演

の両日に行われ
ました。

2日は宵祭
り、3日は本祭
りとして行われ
ました。両日と
も雨は降りませ
んでしたが、風
がやや強く肌寒
い天候でした。

白髭神社の春
の大祭は、上平
芸能保存会の皆
さんを中心とな
り、獅子、囃子、
小学2・3年生

山吹上平地区、白髭神社
の春の大祭が4月2日・3日
かめ踊りの練習を2週間お

後世に祭りと繋げたい 伊勢神社春季例祭

上市田

4月3日、上市田区伊勢
神社春季例祭を行いました。
天気にも恵まれ、多くの区
民が参加しました。



後世に続きますように...

田切区長より「今年は
「はらまち子供太鼓」と「厄
年会」の皆さんにも参加し
てもらい、お囃子を奏でな
がら賑やかに区内
を巡行してほしい」
と挨拶がありました。

法被姿の子供た
ちが囃子屋台を曳
き、保存会がお囃
子を奏でながら区
内を巡るお祭りデ
ス。出発前に山岸
氏子総代長による
御祓いと、囃子屋
台保存会の奉納演
奏で始まりました。
「はらまち子供太

こなつてきました。その成
果を是非見ようと、子供か
らお年寄りまで大勢の方で
にぎわっていました。

花踊りを踊った小学2年
生の男の子は「去年も踊っ
ているので、間違えずに踊
ることができて良かった」
と、満足そうでした。
また、ある女性「孫が

獅子舞の源流がここに 瑠璃寺・日吉神社春の祭典

大島山

4月10日(日)、満開の
桜が咲き誇る中、大島山地
区の瑠璃寺・日吉神社に於
いて、春の祭典がとり行わ
れました。

午後1時より、客殿前大
庭から、僧侶と共に稚児行
列が出発し、参道を通つて

おかめ踊りを踊ったので、
見に来た。上手に踊ってい
た」と嬉しそうに話してく
れました。

上平地区に古くから伝わ
る伝統のお祭りです。花踊
りやおかめ踊りを踊った子
供たちが大人になり、今度
は獅子舞やお囃子で活躍し
てくれることと思います。

本堂に向かいました。本堂
では、瀧本住職と7人の僧
侶による大般若経の転読法
要が行われました。

大般若経とは、正式な名
前を「大般若波羅蜜多經」
といい、今から1300年
以上前に、中国(唐の国)

鼓の皆さんが、休憩場所
で太鼓を叩いてお祭りを盛
り上げてくれました。参加
者からは「今年は鳴物(太
鼓・お囃子)が多くてお祭
りらしいですね」「子供の
参加できる機会が増えてい
い。大切なことです」と話
して下さいました。

子供太鼓の皆さんは「お
祭りが盛り上がりた」と思
い参加しました。太鼓を叩
くのも祭りをみるのも好き
なメンバーです。現在は7
名で活動。区民の皆さんに
も存在を知ってもらふこと
ができたのでは。」役員か
らは「今年は合祀100年の
記念の年。子供たちが参
加して、祭りが楽しいと思
ってもらえるようになれば
いい。後世に続くようにし
てほしい」と話して下さい



五穀豊穡を願う！

五穀豊穡、区民の安全と願う 牛牧神社獅子舞神楽

牛牧

4月10日に牛牧神社「獅
子舞神楽」が行われました。
朝から獅子が区内を廻り、
商売繁盛や家内安全をお囃
子に合わせて舞っていました。
また、囃子屋台を子供
たちが十王の会所から神社
まで曳いて、奉納演奏をし
ていました。

お囃子が鳴り響く山門の
前は、多くの人が集まり始
まるのを待っています。出
囃子が始まり、御猿、赤鬼、
面で広げ流し読むことで、
それによって清らかな「般
若の風」が起きるとされて
います。

また、それぞれの僧侶が、
一巻一巻「大般若波羅蜜多
經 巻第〇〇 唐三蔵法師
玄奘奉詔訳！(とうさんぞ
うほうしげんじょうぶじょ
うやく)」と、大音声で経
巻数を唱え、最後に「降伏
一切大魔最勝成就！(こう
ぶくいつさいだいまさいしよ
うじょうじゅ)」と唱えて
締めくくります。読経が続
く中、神妙な面持ちでじつ
と見ているお稚児さんが印

石灯籠の急な石
段を登り鳥居を潜
り、大杉の根元を
通り抜け、急な石
段を登りきると中
庭広場に出ます。

ここが孟眞王、獅
子の目が見せ場で観客
の目が注がれます。
鬼や御猿が観客を
楽しませる場もあ
りました。約1カ
月間の厳しい練習
成果を披露してい
ました。

関係者からは、「天気に
恵まれ獅子舞が奉納できま
した」「若い人が参加して



若い人が祭りに参加してます!!

虎と狐が春を告げる 新田諏訪神社春季祭典

山吹

新田諏訪神社春季祭典は
4月9日宵祭り10日本祭り
と続きます。

その後、客殿前の大庭で、
4年前に復活した、陵王の
舞が披露されました。陵王
が四方に向かって舞いなが
ら移動するのは、この後に
奉納される獅子舞の場を、
清める意味がふくまれると、
瀧本住職が説明をしてくだ
さいました。

陵王の舞が終わると、宇
天王が率いる獅子舞が、客
殿前大庭から参道を通つて
本堂まで移動し、無事獅子
舞の奉納が終わりました。
大島山瑠璃寺の獅子舞
は、飯田下伊那に伝わる獅
子舞の源流といわれていま
す。満開の桜の下、優雅な
舞楽系屋台獅子を堪能する
ことができました。

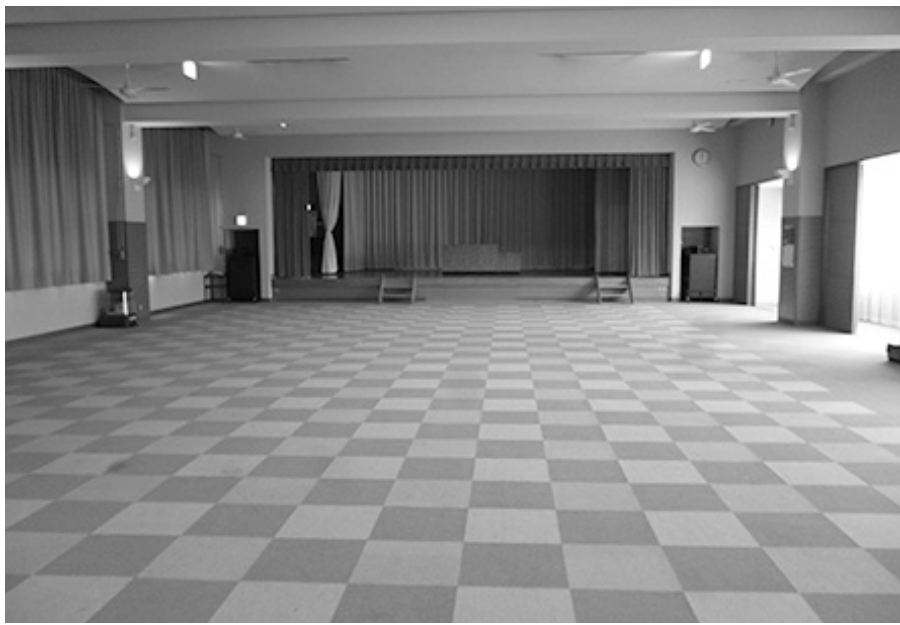
新田諏訪神社春季祭典は
4月9日宵祭り10日本祭り
と続きます。

「虎舞」と「狐踊り」で構成
されています。虎頭、狐面の
起源は古く、宝永4年(17
07年)山吹藩主座光寺氏
が氏の繁栄と里の厄難除け
及び五穀豊穡を祈つて相模
の国一の沢、無常山
浄発願寺に住む空幻
上人を呼び、桐の木
を使い虎頭と、雄雌
一対の狐面を彫らせ、
それを神社に隣接す
る光明寺観音堂(別
名桂堂 町の文化財
指定)の守護神とし
たのが始まりと伝えら
れています。それ以
来虎頭は光明寺の寺
宝として守られてき
ました。大正4年御
大典の際、祝賀行事



元気に舞う子虎

施設の土足化



土足化された大ホール



調理室は履き替えてください

今年1月より、町福祉センター施設の一部を土足で使用してもらうこととした。一部施設とは、2階の大ホール、調理室、休憩室となります。利用者の皆さんが少しでも使い勝手が良くなるよう、利便性の向上を目指し土足化に取り組むものであります。土足化への移行については、大きな費用をかけず、今ある施設の状態の中で、土足で使用するしてもらうことを基本に考えています。土足化をして4ヶ月が経過しますが、施設の利用者の皆さんからは、様々なご意見を寄せていただいています。靴を

脱ぐ手間が省け楽である、足元が冷たくなり助かる、慣れていないので土足で

も予定しています。今後の施設が更に使い易いものとなるよう、これからもご意見をお寄せください。
(教育委員会)

公民館主事交代

前主事 木村 紘太



4月の人事異動により、総務課行政係へ異動となり

ました。公民館で過ごした5年間はとても濃い時間だったと感じています。皆様には夜の会議から休日のイベント等、様々な場面でたくさんのお力をいただき、また、多くのことを教えていただき、本当にありがとうございました。



新主事 岩田 義雄

4月より、公民館主事としてお世話になっていきます。

岩田義雄と申します。分館は出原です。公民館主事は、町の皆様と一緒に活動することが多いので、楽しみにしています。多くの皆様からのご指導をいただきながら、公民館の発展に少しでもお役に立てることができたらと考えています。

町の中で私の顔を見ましたら、声をかけていただくとうれしそうです。

地球温暖化防止活動

ムヒカ元大統領に学ぶ

97

たかもり環境塾

自ら質素な生活をして、大量消費社会をきちんと批判しているムヒカ元大統領の言葉は、温暖化問題にとっても極めて貴重です。先月号で紹介したゲップ税の記事には思わぬ反響がありました。肉食人口増加で、家畜の餌の確保のために農地の拡大が必要になり、森林伐採などが急速に進行し、CO2吸収の源がどんどん失われてゆく一方、牛や羊のゲップは益々増え、過食して消化不良をおこした人間までも温暖化ガスを排出してしまいう有様。ムヒカさんは「物欲に巻き込まれては幸せにはなれません。節度ある生活を」と話されていました。また爆買い激し

そう中国でも、この大量消費社会に見切りをつけるかのように、仏教が大ブームになっているという報道を見ました。「少欲知足」の雨露ののける家があり、食べるものがあることに感謝しながら暮らすことこそ、巨大地震が想定される日本ではとても大事ではないでしょうか。温暖化を進行させてしまつて、にっちもさっちも行かなくなる世界を招かないために、生き方を見直す最後のチャンス時代ではないでしょうか。物欲から開放されて必要以上を持たない幸せこそが、温暖化への不安や恐怖から逃れる道でもありましょう。

まちなとしゃかん

ビジネス支援講演会

幸せになる生き方、働き方

「社員の幸せのための経営」と、「戦わない経営」を貫いて、増収・増益を続ける伊那食品工業(株)会長の塚越寛さんを講師にお招きして、4月27日、福祉センター大ホールにて講演会を行いました。



社員の方々の満足度を高めて企業の業績向上につなげ、企業価値を高めることが、さらに地域の価値を上げることへも影響する。そう話してくださいました。ふたつの雄大なアルプスの狭間にある、特別な景観を持つ伊那谷の素晴らしい景色を、まずはそこに住む人たちが自覚して、自信を持つ生き方をしてほしい。地道に積み上げて「尊敬される地域」にすることが一時的なブームに左右されない方法であると、この「伊那バレー」に共に住む私たちへのメッセージとしておっしゃいました。

聴講の方々のご感想

△経営が厳しいと、どうしても理念を曲げがちだが、講演をお聴きして曲げないのだと感じました。

募集！読書会から始めませんか

「年輪の会」(仮称)で幸せになる働き方の探究を



教育委員会社会教育係では、前島登志夫さん(産業課・産業連携支援員で前商工会事務局長)をアドバイザーに、異業種交流会を計画していきま

しています。3人以上で開催します。ご参加いただける方は図書館へお申し込みください。開催日時等、ご連絡いたします。